

緑内障に対するレーザー治療

1) 緑内障に対するレーザー治療について

緑内障は眼球内の水（房水）の流れが悪くなって、眼圧が上昇することにより見えなくなる病気です。

a) 虹彩光凝固術：閉塞隅角緑内障は虹彩周辺で房水の流れが悪くなり眼圧が上昇する病気です。レーザーで虹彩に孔を開けて房水の流れを良くして、眼圧上昇の予防・治療を行います。

b) 隅角光凝固術：線維柱帯は房水の出口にある組織です。レーザーで線維柱帯を凝固することにより、房水の流れを良くして、眼圧上昇の治療を行います。

2) 実際の治療について

麻酔薬を点眼して麻酔します。痛みが強い場合は、眼球周囲に麻酔薬を注射します。麻酔後に角膜にコンタクトレンズを装着し、専用の機械でレーザーを照射します。

3) 治療後について

レーザー治療による眩しさのため一時的に見づらくなりますが心配ありません。レーザー治療の多くは、失明を予防することが目的で、視力を回復させるものではありません。レーザー治療後に、炎症がおきたり、眼圧が一時的に上昇する事があります。この場合は点眼・内服で治療を行います。

